



コミミスクスク

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 144

2022

1.18

「令和の日本型教育」を考える

有能な学び手としての
子どもの姿から突き付けられたのは
「教師は何のためにいるのか」
という問いでした

昨年未の12月28日に“『個別最適な学びと協働的な学び』刊行記念オンラインイベント”が開催されました。

まず奈須正裕先生から「令和の日本型学校教育～子どもを自立した学習者に育てる～」とい

『個別最適な学びと協働的な学び』 刊行記念オンラインイベント



第1回目 12月28日(火) Open 18:00 - Close 20:00
登壇者 奈須正裕 × 大谷敦司 × 齊藤一弥 × 佐藤卓生

ったテーマでの話題提供がありました。学習指導要領と中教審答申「令和の日本型学校教育」を説明しながら、高度成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた上質で均質な労働者の育成が重視されてきた中で、『自ら課題を見つけ、それを解決する力』を育てるために、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分なされていなかったという指摘や、コロナ禍の中での臨時休校の際に浮き彫りになった、子どもたちが学校や教師からの指示がないと何

をして良いか分からず学びを止めてしまうといった実態から、自立した学習者を育てられていなかったのではという指摘がありました。こうした指摘を聞きながら、「コミュニティ・スクールは『生きる力』が打ちだされた1996年の中教審答申から始まっている」という小西哲也先生（元兵庫教育大学大学院教授）の言葉が頭に浮かんできました。

前半部分での奈須正裕先生や大谷敦司校長先生（天童中部小学校）の話題提供を聞きながら、なぜこのような課題がこれまで積み残されてきたのかをしっかりと押さえたいかないと、新たにICTの活用という課題を上乗せして積み残してしまうのではという怖さを感じました。そして“なぜ個別最適な学びなのか”、“なぜ協働的な学びなのか”について社会背景を含めて議論しながらしっかりと本質に迫り、共有することが大切なんだと改めて感じました。そして、共有するのは校内だけでなく、保護者・地域の皆さんも含めてといった視点は忘れてはいけないなと感じました。また大谷敦司校長先生より、天童中部小学校の実践を聞く中で、何かにぶつかった時に戻る原点として「すべては、子どもを信頼することから始まる」という共通認識と「子どもたちが、今も未来も幸せにくらすことができるように支援する」「子どもたちが最終的には私たちがいないところで学び合うことができるようにする」という合言葉が心に響きました。まさしく、こうしたことを学校・保護者・地域で共有できるかどうかなんだろうなと思いました。そして共有するために必要なのが学校・保護者・地域、そして子どもたちとで進める学校のグランドデザインづくりなんだろうなと思います。また、後半の奈須正裕先生・大谷敦司先生・齊藤一弥先生（島根県立大学教授）・佐藤卓生先生（山形市小学校教諭）の4人によるシンポジウムを聞きな

から、これからの授業や教科をどのようにとらえていくかといった子どもを主語した議論をすることで教師の役割といったものが見えてくるのだろうなと感じました。ただ、シンポジストのみなさんが教員といったことから教師側からのこれまで繰り返されてきた授業論にまともになってしまうような感じを受けました。そういった意味で異なる立場からの視点というのが必要とされている意味がなんとなく見えてきたような気がします。

オンライン研修・研究発表会の活用法

教師自身の
「主体的・対話的な深い学び」を

コロナ禍で一気に進んだのがこうしたオンラインによる研修です。有料・無料等関係なく、充実した内容の研修会がたくさん企画・開催されています。

また、筑波大附属・学芸大附属といったコロナ禍前であれば、全国各地から参集されていたような研究発表会もオンラインの開催が主流となってきています。またこうした研修会・研究発表会の中にはアーカイブを YouTube で公開されているものもあります。教職員の研修も視点を変えてみると、個別最適化された学びができるようになってきていると考えられるのではと思います。また、そこで学んだことを校内でコミュニケーションを図りながら共有していくことが新たな学びを創り出していくことにつながっていくと考えます。企業で働く若い人と話をしていると 30 代、40 代…と自分の未来をイメージして自分で学んでいかないとキャリアアップしていけないといった危機感を感じます。まさに、社会の変化に対応するための「主体的・対話的な深い学び」が生き残っていくために必要なんだといったことを感じさせられます。そういった意味で、学校の外の世界をみている機会としてこうしたオンラインの研修が活用できるのではと考えます。また、地域・保護者の皆さんにもそうした情報を出していく中で、今の教育の流れ等の理解につなげるといった活用も考えられるのではと思っています。こうしたことができるのもデジタルの強みなのではと考えます。

(幻冬舎 GOLD ONLINE) より

“給与の心配は不要…世間一般と大違い「教師」の特殊すぎる実態”



国語学習者用デジタル教科書活用
オンラインセミナー2021

本セミナーは4回に渡って、国語学習者用デジタル教科書を活用する授業について情報提供されています。デジタル教科書の活用イメージを持つうえで

参考になるのではと思っています。

第1回 デジタル教科書で実現する子どもの変容

第2回 再考「紙の教科書」と「デジタル教科書」

第3回 デジタル教科書で変わる授業 / 視聴期間 2021年12月20日～1月30日

第4回 デジタル教科書の成果物の見方・使い方 / 配信前

※第3回の申し込み者には第1回、第2回の視聴も可能になります



Kumamoto Education Week
2022.1.22～30

「豊かな人生とよりよい社会を創造するために自ら考え主体的に行動できる人を育む」このことを広く社会と共有し、共に考える9日間。多彩なイベント・

講座があるので関心のあるイベント・講座に参加されてみるのはいかがでしょうか。



(文責：北本)